

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成29年5月  
熊本市（熊本県）

### 全体総括

○計画期間：平成24年4月～平成29年3月（5年）

#### 1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

基本計画に基づき、「人々が活発に交流しにぎわうまち」「城下町の魅力があふれるまち」「誰もが気軽に訪れることができるまち」を目指して各事業を実施したところ、「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」や「市電の利用者数」が目標を達成するなど、事業の進捗による効果が現われた。

中心商店街では、年間を通してイベントを開催するとともに、上通と下通アーケードの照明や路面の改修により、安全な歩行環境が整備され、商店街の魅力が向上している。さらに、本年4月には、下通A地区優良建築物等整備事業による商業施設COCOSA（ココサ）がオープンし、新たな流行の発信拠点として期待されている。

また、熊本城と中心商店街の間に位置する桜町地区では、再開発事業により、（仮称）熊本城ホールや商業施設等の整備、老朽化したバスターミナルの建て替えが行われる計画であり、本年1月には新たな施設の建設に着工したところであるが、平成31年の事業完成までの間、中心市街地のにぎわいを維持していくことが大きな課題となっている。

このため、隣接する花畑地区において、平成27年6月から（仮称）花畑広場として暫定的に供用開始したところ、物販、飲食や展示会等の多様な利用が行われ、平成27年度は約56万人、平成28年度は約62万人が来場するとともに、イベント開催時には、周辺の歩行者・自転車通行量が約1.4倍に増加するなど、来場者を中心商店街に回遊させている。

一方、熊本駅周辺地区は、平成23年3月に九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、熊本駅前東A地区市街地再開発事業における「くまもと森都心プラザ」のオープン、新熊本合同庁舎の完成により、歩行者・自転車通行量や熊本駅の利用者数が増加するなど、陸の玄関口としての役割を果たしている。

しかし、熊本地震により、中心市街地内の居住人口の減少や来訪観光客の減少などによる中心市街地のにぎわいの減退が懸念されており、一時的には復興需要により個人消費や小売販売額が伸びているが、将来的には景気減速が危惧されている。

#### 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

##### 【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業は概ね遅延なく実施でき、65事業中16事業が完了、45事業を着手することができたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。

各目標指標が増加しただけでなく、中心市街地の居住人口は増加(国勢調査による中心市街地内の居住人口/35,750人<H22年度>⇒36,927人<H27年度>:対22年度比3%増)しており、観光客数(市内観光客数/533万人<H22年>⇒561万人<H27年>:対22年比5%増)、宿泊客数ともに増加(市内宿泊客数/210万人<H22年>⇒264万人<H27年>:対22年比26%増)した。さらには、企業立地件数の増加(中心市街地内における企業立地件数/1件<H22年度>⇒6件<H28年度>)や中心部へのマンション供給の増加(中心市街地内の大規模建築物等届出(共同住宅等)における延べ床面積/172,229㎡<H22年度>⇒358,591㎡<H28年度>:対22年度比108%増)もみられた。

しかし、若年層の人口減少(20歳~34歳の居住人口/7,051人<H18年4月>⇒6,885人<H28年4月>:対18年度比2%減)やコンベンション開催件数が他都市と比較して少ないなど定住・交流人口に対する課題が残っている。

また、震災後は、居住人口の減少(居住人口/36,934人<H28年4月>⇒36,604人<H28年10月>)や経済被害額が1.6兆円にのぼるなど、中心市街地のにぎわいの減退が懸念されており、震災からの復興が喫緊の課題となっている。

こうした状況の中、熊本城内の二の丸広場での復興催事等の展開により、被災した熊本城エリアに多くのにぎわいを創出している。

さらに、本市とファッション関係業界及び中心商店街により「ファッションの街くまもと魅力創造実行委員会」が立ち上げられ、中心商店街においてファッションをテーマにしたイベントを行うことにより、震災からの復興に取り組んでいる熊本の姿を内外に発信することができた。また、(仮称)花畑広場において物販、飲食や展示会等の多様なイベント、中心商店街において季節ごとのイベントが開催され、中心市街地のにぎわいが創出された結果、震災後の歩行者・自転車通行量が増加するなど、官民連携のさまざまな取り組みが行われた。

### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

#### 【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

基本計画の目標指標の3項目のうち「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」と「市電の利用者数」の2つについて目標を達成できたことは、中心市街地の活性化事業が大きく寄与したものである。「熊本城入園者数」については、計画期間の4年間(H24~H27)において事業効果を発揮することで順調に増加してきたが、平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」により中心市街地も甚大な被害を受け、特に熊本城においてはほとんどのエリアにおいて立ち入りが規制されるなど影響が大きいものとなった。

そのような中においても、上記2項目の指標について目標を達成できたことは、震災で熊本市内及び周辺の大規模商業施設等の休業があったとしても、震災後中止することなく実施した中心市街地活性化推進事業の効果は非常に大きいものがあつた。

また、「熊本城入園者数」においても、発災後入園規制がなされているにもかかわらず、多くの方が入園しているということは、熊本城が単なる観光名所としてだけではない、熊本のシンボルとしてのポテンシャルの高さを改めて感じさせるものであり、今後数十年を要する復興事業の活性化への活用にも繋がるものである。

本年3月に認定を受けた3期の計画においては、単なる2期計画からの継続というものではなく、震災後、創造的復興を目指す新たな事業が多く盛り込まれている。

復興に最も重要となる5年間において、中心市街地の活性化に大きく寄与することが期待できる内容であり、今後も活性化に向け、引き続き官民一体となった協力体制のもと事業推進に積極的に取り組んでいきたい。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

平成 27 年度熊本市第 6 次総合計画市民アンケート調査報告書

○実施主体:熊本市

○実施期間:平成 27 年 12 月 28 日～平成 28 年 1 月 12 日

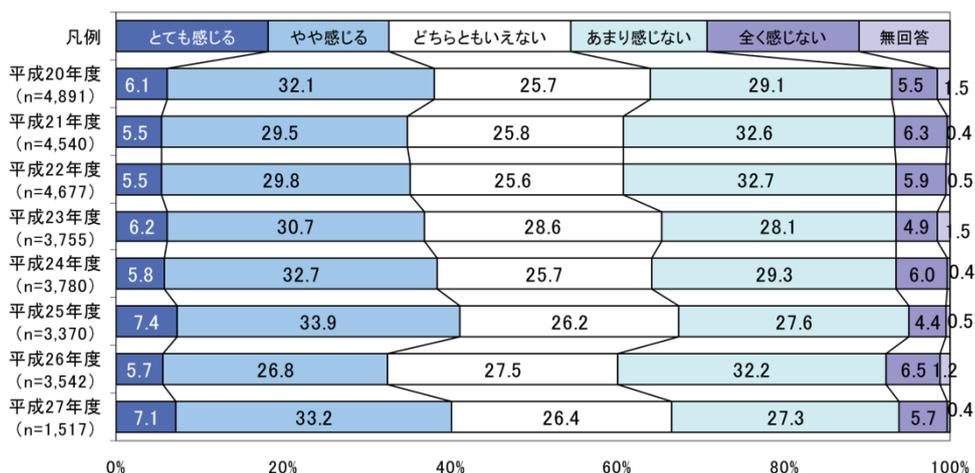
○調査対象者:熊本市在住の満 20 歳以上の男女 1 万人  
(住民基本台帳より無作為抽出。外国人含む。)

○調査方法:郵送による配布・回収

○回収結果:有効回収数 1,517 人 有効回収率 15.2%

「中心市街地ににぎわいがあるかどうか」について、「とても感じる」と「やや感じる」の合計は、平成 22 年度が 35.3%であったのに対し、平成 27 年度では 40.3%に増加しており、計画期間前後で市民意識は改善している。

### < 「中心市街地ににぎわいがあるかどうか」 >



## 6. 今後の取組

熊本地震後、高度な都市機能が集積する中心市街地において、防災機能の向上を図りつつ、桜町・花畑周辺地区や熊本駅周辺地区の再整備などを進めることは、本市を含む都市圏全体の経済の再生・成長をけん引するとともに、“くまもの顔”である中心市街地の更なるにぎわいを創出するために必要である。

また、平成 31 年には、本市でラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権大会が、平成 32 年には東京オリンピックといった世界的なスポーツイベントが開催されるなど、本市が、多くの観光客が訪れる魅力ある都市として成熟していくための大変重要な時期を迎えている。

そのような中、具体的な取り組みとして、桜町・花畑地区においては、再開発事業、シンボルプロムナード等の整備や平成 31 年の再開発事業完成までの間、(仮称)花畑広場における各種イベントにより、中心市街地のにぎわいを維持していく。

一方、熊本駅周辺地区では、連続立体交差事業に合わせ、3 期計画における新たな取り組みとして、東口駅前広場の整備等により JR 熊本駅の交通結節機能を高め、公共交通機関の更なる利便性向上を図るとともに、JR 熊本駅ビルの完成等、交流拠点としての機能向上に取り組んでいく。

さらに、被災した熊本城を国内外へ向けた新たな観光資源として活用し、MICE の誘致によりコンベンション開催件数を増加させるとともに、国内外に対しての観光 PR 等により、交流人口を増加させ、経済波及効果を高めていく。

**(参考)****各目標の達成状況**

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
人々が活発に交流しにぎわうまち	中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量	277,017 人/日 (H22)	310,000 人/日 (H28)	333,023 人/日	H28.10	A
城下町の魅力があふれるまち	熊本城入園者数	1,440,355 人/年 (H22)	2,000,000 人/年 (H28)	(震災前) 99,528 人/年	H29.3	C
				(震災後)※1 1,328,619 人/年		
				(合計) 1,428,147 人/年		
誰もが気軽に訪れることができるまち	市電の利用者数	9,537,000 人/年 (H22)	10,525,000 人/年 (H28)	10,709,117 人/年	H29.3	A

※1 熊本城来場者数

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

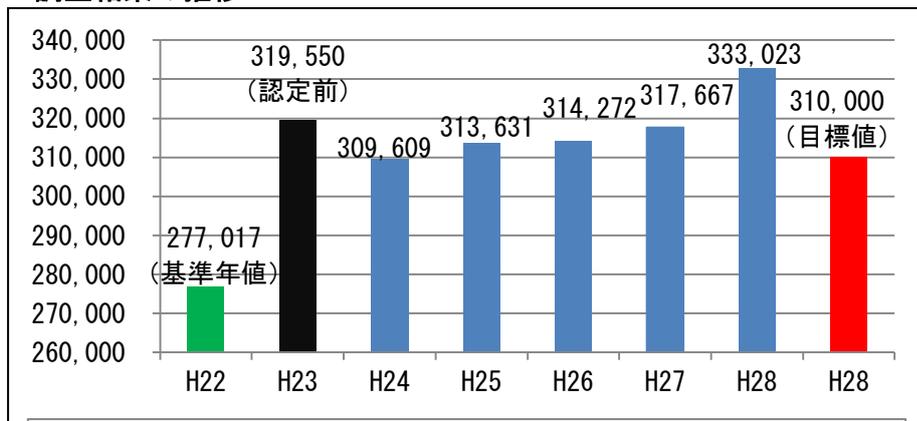
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P46～P58 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	277,017 (基準年値)
H23	319,550
H24	309,609
H25	313,631
H26	314,272
H27	317,667
H28	333,023 (目標値) 310,000

※調査方法：調査地点を通過する対象者数を進行方向別に5分間計測、計測値に12を乗じて1時間の通行量を換算・推計し、1日(12時間)の通行量を算出

※調査月：10月

※調査主体：熊本市、熊本商工会議所

※調査対象：計測地点28か所における歩行者及び自転車(中学生程度以上)通行量の2日間(金曜日と日曜日)の平均値

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

#### ①. 花畑地区広場整備事業(事業主体：熊本市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(熊本型コンパクトシティ形成地区)) 平成25年度～平成27年度 社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(桜町・花畑地区)) 平成25年度～平成30年度
事業開始・完了時期	平成25年度～平成30年度【実施中】
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』』としてシンボルプロムナードや(仮称)花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)33,202人(広場周辺3地点 No.2、3、5)
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	多種多様なイベントの開催により、当地区のにぎわいを創出し、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況(事業効果)	平成27年度から(仮称)花畑広場として暫定的に供用開始したところであり、物販、飲食や展示会等の多様な利用が行われ、休日における稼働率は、平均74%と多くの方が利用している。イベント開催時には、周辺の歩行者・自転車通行量が約1.4倍に増加するなど、来場者を中心市街地の回遊に繋げることが出来た。
花畑地区広場整備事業の今後について	桜町・花畑周辺地区のにぎわい創出と中心市街地の回遊性の拠点となるよう暫定的な運用を行い、再開発事業完了後は、隣接するシンボルプロムナードと一体となって市民等が憩い・集いたくなるような空間を形成する。また、熊本地震を受けオープンスペースの重要性が増していることから防災等の面からの機能強化を図るとともに、さまざまなイベントが可能となる施設を整備することにより、県内外からの来街者を増加させる。

②. 中心市街地空き店舗等総合活用事業(事業主体：熊本市又は民間事業者)

支援措置名及び支援期間	なし		
事業開始・完了時期	平成 24 年度予定【実施中】		
事業概要	商店街内の空き店舗等の利活用を進めるための支援措置を講じる。		
目標値・最新値	(目標値)211,874 人 H22:208,874 人 (No.5~19、21~24)→3,000 人増 (最新値)240,860 人		
達成状況	目標達成		
達成した(出来なかった)理由	営業店舗数の増加により集客が図られ、歩行者・自転車通行量が増加した。		
計画終了後の状況(事業効果)	<p>商店街に出店する事業者の店舗改装費を補助することで事業者の負担を軽減するとともに、平成 28 年度は熊本地震により被災し、移転が必要となった事業者が商店街へ出店する事業を補助の対象とするなど、商店街への出店しやすい環境を整えることで、現在も商店街の空き店舗数が減少している。</p> <p>【中心市街地商店街空き店舗率】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 22 年度(基準値):11.4%(42 店/370 店)</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度(最新値):7.1%(26 店/368 店)</td> </tr> </table>	平成 22 年度(基準値):11.4%(42 店/370 店)	平成 28 年度(最新値):7.1%(26 店/368 店)
平成 22 年度(基準値):11.4%(42 店/370 店)			
平成 28 年度(最新値):7.1%(26 店/368 店)			
中心市街地空き店舗等総合活用事業の今後について	事業者への補助だけでなく、安定した経営ができるよう、くまもと森都心プラザにあるビジネス支援センター等を紹介し、必要なアドバイスを提供する等、創業時の支援にもつなげていく。		

③. 暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅前東 A 地区)(事業主体：熊本市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅前東 A 地区)) 平成 20 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本駅前東 A 地区における第二種市街地再開発事業(本工事分)</li> <li>・施行面積 1.4ha</li> <li>・施設規模 延床面積 約 51,900 m<sup>2</sup> (公益施設 約 9,500 m<sup>2</sup>、商業・業務施設 約 3,600 m<sup>2</sup>、住宅施設 約 20,400 m<sup>2</sup>、共用部 約 18,400 m<sup>2</sup>)</li> </ul>
目標値・最新値	(目標値)6,485 人 H22:3,485 人 (No.27・28)→3,000 人増 (最新値)12,012 人
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	熊本駅に近接した情報交流拠点であるくまもと森都心プラザやタワーマンションが完成するとともに、周辺に専門学校等の施設が整備されたことで、人が集う街並みが形成され、相乗効果により歩行者・自転車通行量が大きく増加した。
計画終了後の状況(事業効果)	情報交流拠点「くまもと森都心プラザ」やタワーマンション等の整備により、情報発信・にぎわいの創出・駅に近接した中心市街地での都心居住が図られた。また、多くの方が情報交流施設を利用し、特に図書館を利用していることから、熊本駅周辺地区の歩行者・自転車通行量の増加に引き続き寄与している。

	<p><b>【情報交流施設利用者数】</b></p> <p>平成 25 年度:1,052,109 人(うち図書館利用者 758,068 人)  平成 26 年度:1,109,252 人(うち図書館利用者 800,840 人)  平成 27 年度:975,118 人(うち図書館利用者 647,635 人)  平成 28 年度:579,573 人(うち図書館利用者 328,983 人)  ※平成 28 年度は熊本地震の影響により施設の一部が使用不能の状態となった。</p>
暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅前東 A 地区)の今後について	平成 24 年度事業完了

④. 新熊本合同庁舎の整備(事業主体:国)

支援措置名及び支援期間	国直轄事業
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地面積:約 2.5ha</li> <li>施設規模:A 棟約 26,000 m<sup>2</sup>(H22 年 11 月完成) B 棟 約 24,000 m<sup>2</sup></li> </ul>
目標値・最新値	(目標値)7,585 人 H22:3,485 人(No.27・28)→4,100 人増 (最新値)12,012 人
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	熊本駅周辺にふさわしいアメニティ空間が形成されるとともに、広域交流拠点施設としてにぎわいの創出が図られ、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況(事業効果)	<p>熊本駅周辺のまちづくりの方向性や駅周辺整備計画との整合を図るため、「新熊本合同庁舎及び周辺地区整備協議会」で検討調整を行ったことで、駅周辺の他事業と相まって魅力的で個性ある街並みが形成されている。また、職員や関係者が多数来庁しており、熊本駅周辺のにぎわいの創出に引き続きつながっている。</p> <p><b>【A 棟、B 棟を合わせた職員数及び来庁者数(平成 29 年 3 月現在)】</b></p> <p>職員数:約 2,200 人  来庁者数:約 8,500 人/月</p>
新熊本合同庁舎の整備の今後について	平成 26 年度事業完了

⑤. 熊本駅西土地区画整理事業(事業主体:熊本市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生土地区画整理事業(熊本駅西土地区画整理事業)) 平成 23 年度～平成 25 年度 社会資本整備総合交付金(道路事業(区画整理)) 平成 21 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 13 年度～平成 28 年度【実施中】

事業概要	土地区画整理事業により、公共施設やアクセス道路等の整備改善及び宅地の利用増進を図る。施行面積 18.1ha
目標値・最新値	(目標値)5,485人 H22:3,485人(No.27・28)→2,000人増 (最新値)12,012人
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	公共施設の整備改善と宅地の利用増進が進み、交流拠点性の高い中心市街地の形成がなされ、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況(事業効果)	建物密集や道路狭隘、公園等の公共施設不足の解消等による安全で安心な居住環境の整備改善がなされたことで、宅地の利用増進も進み、整備地区の資産価値が向上している。また、西口駅前広場を核とした交通結節機能の向上による利便性が向上している。
熊本駅西土地区画整理事業の今後について	連立事業との工程調整を行いつつ、一部未完成の道路及び公園の完成を目指し、更なる公共施設の充実及び交通結節機能の向上を図る。

⑥. 企業立地促進事業(事業主体:熊本市)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成11年度～【実施中】
事業概要	中心市街地へのオフィス等の誘致を促進するための支援措置を講じる。
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)―
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における企業立地件数は増加傾向で、平成22年度以降の新規雇用予定者数は約3,500人となり、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況(事業効果)	市内全体の企業立地件数においても、平成22年度には8件であったが、政令指定都市移行後は、14～16件で推移、平成28年度は熊本地震の影響もあり11件となったものの、中心市街地においては、6件と依然として堅調に推移している。進出企業は、製造業や運輸業、コールセンター等の職種を中心に、さまざまな企業が現在も進出している。 【中心市街地における企業立地件数】
企業立地促進事業の今後について	「モノ」ではなく「人」の成長を重視した熊本独自の支援を広くPRすることや情報通信関連産業(コンテンツ産業、IT、BPO等)に対する投資環境・人材の強みを活かした営業の推進など、新たな企業立地補助制度の活用による新規開拓を推進するとともに、中心市街地におけるオフィス床不足の解消に向けたビルオーナーへの支援を行っていく。

⑦. 自転車駐車場整備等補助事業（事業主体：熊本市）

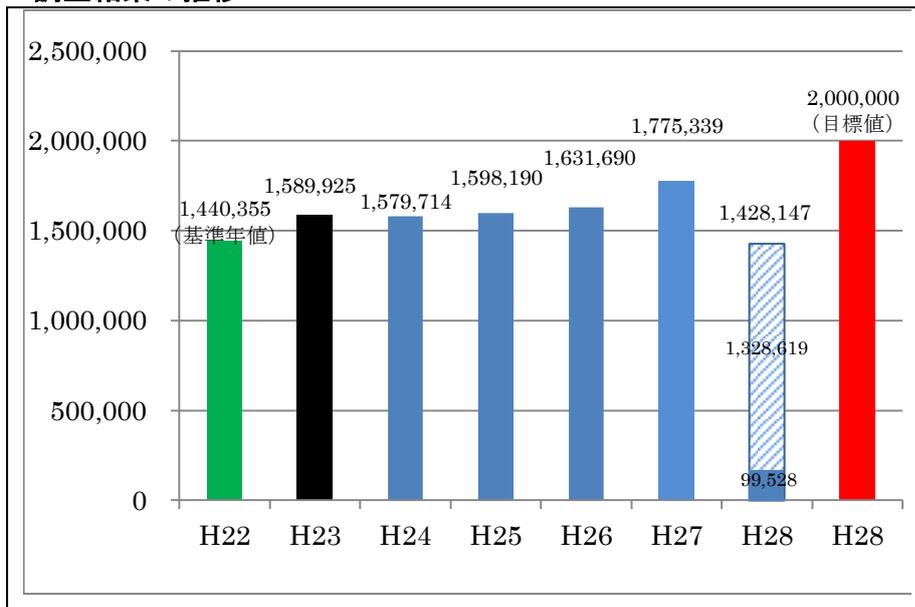
支援措置名及び支援期間	なし																						
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 28 年度【済】																						
事業概要	民間による駐輪場整備費用に対して補助を行う。																						
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)― ※当事業により 1,000 人増加との積算を行っているが、測定地点全体での増加を見込んでおり、個別地点での設定はしていない。																						
達成状況	目標達成																						
達成した（出来なかった）理由	駐輪場の整備により、自転車利用者の利便性が向上し、利用者をより中心市街地へ呼び込むことにつながり、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。																						
計画終了後の状況（事業効果）	<p>駐輪場の整備により、自転車利用者の利便性が向上し、放置自転車数も大幅に減少しており、安全・安心で快適に歩くことができる歩行者空間や都市景観の改善を引き続き実現している。</p> <p>【中心市街地の駐輪場設置数】 市営 5 箇所、民営 11 箇所</p> <p>【中心市街地の駐輪場利用台数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>市営</th> <th>民営</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td>1,133,723 台</td> <td>1,358,574 台</td> <td>2,492,297 台</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td>1,150,072 台</td> <td>1,349,895 台</td> <td>2,499,967 台</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>1,070,474 台</td> <td>1,253,687 台</td> <td>2,324,161 台</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>1,053,203 台</td> <td>1,265,696 台</td> <td>2,318,899 台</td> </tr> </tbody> </table> <p>【中心市街地の放置自転車数の調査結果(年 1 回実施)】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 22 年度(基準値):1,857 台</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度(最新値):61 台</td> </tr> </table>	年度	市営	民営	合計	平成 25 年度	1,133,723 台	1,358,574 台	2,492,297 台	平成 26 年度	1,150,072 台	1,349,895 台	2,499,967 台	平成 27 年度	1,070,474 台	1,253,687 台	2,324,161 台	平成 28 年度	1,053,203 台	1,265,696 台	2,318,899 台	平成 22 年度(基準値):1,857 台	平成 28 年度(最新値):61 台
年度	市営	民営	合計																				
平成 25 年度	1,133,723 台	1,358,574 台	2,492,297 台																				
平成 26 年度	1,150,072 台	1,349,895 台	2,499,967 台																				
平成 27 年度	1,070,474 台	1,253,687 台	2,324,161 台																				
平成 28 年度	1,053,203 台	1,265,696 台	2,318,899 台																				
平成 22 年度(基準値):1,857 台																							
平成 28 年度(最新値):61 台																							
自転車駐車場整備等補助事業の今後について	平成 28 年度事業完了																						

3. 今後について

- ・平成 28 年 4 月の熊本地震後、消費マインドの低下や来訪観光客の減少の中、中心商店街や(仮称)花畑広場でのイベントの開催、熊本駅周辺地区におけるまちづくりの取り組みなどにより、歩行者・自転車通行量は増加し、目標を達成した。
- ・桜町・花畑周辺地区や熊本駅周辺地区の再整備については、防災面からの機能強化を図り、災害に強い安全・安心なまちづくりを進める。
- ・さらに、中心市街地の優れた交通利便性やこれまでに集積した都市機能を活かし、企業立地の推進を図る。
- ・計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。

「熊本城入園者数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P65 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	1,440,355 (基準年値)
H23	1,589,925
H24	1,579,714
H25	1,598,190
H26	1,631,690
H27	1,775,339
H28	(地震前) 99,528 人 (地震後) 1,328,619 人 (合計) 1,428,147 人 (目標値) 2,000,000

■ 熊本城入園者数    ▨ 熊本城来場者数

※調査方法：熊本城入園者数の集計による算出

※調査月：4月～翌年3月

(H28年は震災前：4月1日～14日、震災後：5月12日～翌年3月末で集計)

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城入園者

※熊本地震前後により入園者数の計測方法が異なるため、H28の数値は参考値である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 熊本城第Ⅱ期復元整備事業（事業主体：熊本市）

支援措置名及び支援期間	史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業 平成23年度～平成29年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成29年度【実施中】
事業概要	行幸坂から見た往時の熊本城の復元整備を図るため、「馬具櫓及び続塀」「平左衛門丸の塀」「西櫓門及び百間櫓」の整備を行う。
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)― ※当事業により51,000人増加との積算を行っているが、測定地点全体での増加を見込んでおり、個別地点での設定はしていない。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	歴史的建造物の復元を着実に推進し、往時の勇姿に近づけることにより、熊本城の魅力が高まり、入園者数の増加が図られたものの、目標値までは届かなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成26年度に馬具櫓及び続塀の復元整備が完了し、同復元整備事業の実施により、平成26年度及び平成27年度の熊本城入園者数の増加に貢献した。
熊本城第Ⅱ期復元整備事業の今後について	熊本地震により、熊本城は重要文化財建造物13棟及び再建・復元建造物20棟の全ての建造物が被災し、石垣も全体の約3割にあたる23,600㎡で崩落や緩み等が見られるなど、過去に類を見ない甚大な被害を受けたことから、事業を継続するのは困難な状況。

②. 中心市街地活性化推進事業(事業主体：熊本商工会議所、中心商店街等連合協議会、城下町大にぎわい市実行委員会、ストリート・アート・プレックス実行委員会他)

支援措置名及び支援期間	なし																																				
事業開始・完了時期	平成 16 年度～【実施中】																																				
事業概要	年間を通して、まちの魅力づくりを行う「ストリート・アート・プレックス」や四季折々に街なかの賑わいを創出する、「城下町くまもと银杏祭」、「城下町大にぎわい市」等を開催する。																																				
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)―																																				
達成状況	目標未達成																																				
達成した(出来なかった)理由	街なかでのイベント開催により、熊本城一帯の魅力が高まり、入園者数の増加が図られたものの、目標値までは届かなかった。																																				
計画終了後の状況(事業効果)	<p>まちの文化、芸術の継続的な発信や事業者、商店街等が連携して、中心市街地の魅力向上につながるイベントを季節ごとに実施し、街なかのにぎわいを引き続き創出している。</p> <p>【ストリート・アート・プレックス】開催数:通算 224 回(毎年 9 回程度)</p> <p>&lt;集客数&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 23 年度</td> <td>平成 24 年度</td> <td>平成 25 年度</td> <td>平成 26 年度</td> <td>平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>34,939 人</td> <td>30,732 人</td> <td>36,604 人</td> <td>37,807 人</td> <td>33,844 人</td> <td>33,637 人</td> </tr> </table> <p>【城下町くまもと银杏祭】開催数:通算 12 回(毎年 10 月)</p> <p>&lt;集客数&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 23 年度</td> <td>平成 24 年度</td> <td>平成 25 年度</td> <td>平成 26 年度</td> <td>平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>37,108 人</td> <td>39,940 人</td> <td>53,082 人</td> <td>56,064 人</td> <td>64,194 人</td> <td>29,569 人</td> </tr> </table> <p>【城下町大にぎわい市】開催数:通算 13 回(毎年 10 月)</p> <p>&lt;集客数&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 23 年度</td> <td>平成 24 年度</td> <td>平成 25 年度</td> <td>平成 26 年度</td> <td>平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>156,984 人</td> <td>168,400 人</td> <td>201,906 人</td> <td>72,466 人</td> <td>133,000 人</td> <td>84,000 人</td> </tr> </table> <p>※平成 26 年度は台風の接近により初日のみ開催。</p>	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	34,939 人	30,732 人	36,604 人	37,807 人	33,844 人	33,637 人	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	37,108 人	39,940 人	53,082 人	56,064 人	64,194 人	29,569 人	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	156,984 人	168,400 人	201,906 人	72,466 人	133,000 人	84,000 人
平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度																																
34,939 人	30,732 人	36,604 人	37,807 人	33,844 人	33,637 人																																
平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度																																
37,108 人	39,940 人	53,082 人	56,064 人	64,194 人	29,569 人																																
平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度																																
156,984 人	168,400 人	201,906 人	72,466 人	133,000 人	84,000 人																																
中心市街地活性化推進事業の今後について	今後も継続して実施していく中で、公共空間の有効的な利活用について、行政、経済団体や商店街との情報共有を密に行い、合意形成を図ることにより、官民連携して中心市街地のにぎわい創出に取り組んでいく。																																				

### 3. 今後について

・海外に向けたプロモーション活動の展開による外国人観光客の増加、中心市街地や熊本城に隣接する「桜の馬場 城彩苑」でのイベント開催により集客の増加が図られ、それに伴い熊本城入園者数は年々増加したが、目標は未達成となった。

・その要因は、平成 22 年(基準年)と平成 27 年(最新年)の入園者数を比較した際に、外国人観光客は当初約 4 万人の増加を見込んでいたのに対して、約 27 万人増加したものの、国内観光客は当初約 54 万人の増加を見込んでいたのに対して、約 6 万人の増加にとどまっているということが考えられる。

・また、国内観光客の伸びが少ないことに関しては、H23 年から毎年行っている「熊本城及び桜の馬場城彩苑観光客実態調査」によれば、熊本城を訪れる九州以外の方は、H23 年の 61%から H27 年では 41%と減少しており、H23 年に九州新幹線の全線開業があったものの、現在ではその効果が薄れ、国内観光客の中でも九州以外からの観光客が少ないということが考察される。

・しかし、平成 28 年度は、4 月 14 日の震災以前は、前年度を上回り、目標値を達成するペースの入園者数があり、震災後においても、熊本城内の二の丸広場での復興催事等の展開により、被災した熊本城エリアに多くのにぎわいを創出している。

・平成 20 年度から進めてきた熊本城第Ⅱ期復元整備事業は熊本地震の被災により終了するものの、発災以降、熊本城の 1 日も早い復旧に向けて崩落・倒壊した石垣・建造物等の部材回収や倒壊防止対策に取り組むとともに、昨年 12 月に策定した「熊本城復旧基本方針」に基づき、平成 29 年度には引き続き文化財的価値の保全を図る部材回収等の事業を進めながら、復興のシンボルである天守閣の本格復旧

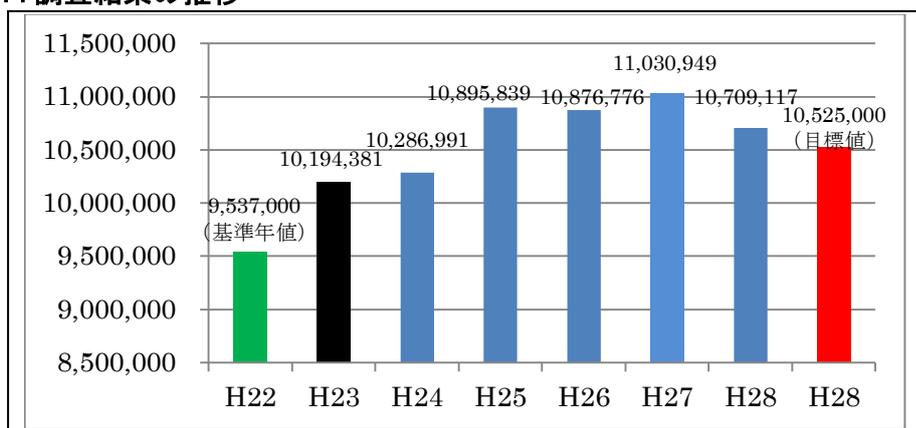
工事も着手したところである。

・今後は、基本方針に基づき、具体的な復旧の手順や工法、復旧過程の段階的公開に係るエリアや観覧ルートの設定などを定めた「熊本城復旧基本計画」を平成 29 年度中に策定することとしており、同基本計画に基づく石垣・建造物等の計画的・効率的復旧を進めるとともに、復旧過程の戦略的な公開と活用を図り、武将隊の活用を含む二の丸広場での復興催事等の展開や外国人観光客向けに多言語化を図った熊本城公式ホームページでの情報発信を広く行いながら、熊本城の復旧していく過程を観光資源として十二分に活用し、中心市街地活性化をはじめ、復興に向けたまちづくりに寄与していく。

・また、熊本城の復旧工事が本格化するに伴って、熊本城に隣接する「桜の馬場 城彩苑」、その中にあ  
る歴史文化体験施設「湧々座」から、観光客の求める熊本城の復旧情報などを発信できるよう展示品を更  
新していくことにより、地震後減少傾向にある熊本城周辺の観光客の増加を目指していく。

「市電の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P66～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	9,537,000 (基準年値)
H23	10,194,381
H24	10,286,991
H25	10,895,839
H26	10,876,776
H27	11,030,949
H28	10,709,117 (目標値) 10,525,000

※調査方法：市電運賃收受の集計による算出

※調査月：4月～翌年3月

※調査主体：熊本市交通局

※調査対象：市電の利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 超低床電車導入事業（事業主体：熊本市交通局）

支援措置名及び支援期間	地域公共交通確保維持改善事業 平成25年度予定
事業開始・完了時期	平成25年度予定【済】
事業概要	超低床電車の導入 ・導入予定車両数 2編成(4両)
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)―
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	車両のバリアフリー化により、誰もが乗降しやすいものとなり、市電の利用者数の増加に寄与した。
計画終了後の状況（事業効果）	新型超低床電車(COCORO)は、出入口付近の床面高さが30cmで、車いす用の電動リフトを装備し、車両のバリアフリー化を行うとともに、特別感・プレミアム感を演出することにより、観光客をはじめとした市電の利用者に熊本の魅力を現在も発信している。
超低床電車導入事業の今後について	平成26年度事業完了

②. 市電車両リフレッシュ事業（事業主体：熊本市交通局）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成24年度～平成27年度【済】
事業概要	旧型車両の内外装の再塗装やシート・床の張替え、ステップの嵩上げ等を実施する。
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)―
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	旧型車 22 両の改修を行い、利便性の向上を図ることにより誰もが乗降しやすいものとなり、市電の利用者数の増加に寄与した。			
計画終了後の状況（事業効果）	市電のサービス向上や安全対策に資するリフレッシュが図られ、市電車両の満足度は現在も高まっている。 【市電車両の満足度(市電・バスに関するアンケート調査報告書)】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>「満足」+「やや満足」の割合</td> </tr> <tr> <td>平成 22 年度(基準値):64.3%</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度(最新値):66.8%</td> </tr> </table>	「満足」+「やや満足」の割合	平成 22 年度(基準値):64.3%	平成 28 年度(最新値):66.8%
「満足」+「やや満足」の割合				
平成 22 年度(基準値):64.3%				
平成 28 年度(最新値):66.8%				
市電車両リフレッシュ事業の今後について	平成 27 年度事業完了			

### ③. 電停改良事業（事業主体：熊本市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市電沿線地区都市交通システム整備事業) 平成 23 年度～平成 26 年度																		
事業開始・完了時期	平成 23 年度～【実施中】																		
事業概要	電停のバリアフリー化を行う。																		
目標値・最新値	(目標値)― (最新値)― ※当事業により 33,000 人増加との積算を行っているが、測定地点全体での増加を見込んでおり、個別地点での設定はしていない。																		
達成状況	目標達成																		
達成した（出来なかった）理由	電停のバリアフリー化により、市電の利用促進及び利便性向上が図られ、市電の利用者数の増加に寄与している。																		
計画終了後の状況（事業効果）	電停の安全性、利便性向上により、市電の利用促進に引き続きつながっている。 【電停改良を行った 5 駅の乗降人数】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新水前寺駅前</th> <th>九品寺交差点</th> <th>市立体育館前</th> <th>交通局前</th> <th>熊本城・市役所前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 22 年度(基準値)</td> <td>2,960 人</td> <td>1,406 人</td> <td>629 人</td> <td>1,402 人</td> <td>1,905 人</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度(最新値)</td> <td>4,595 人</td> <td>1,883 人</td> <td>889 人</td> <td>1,303 人</td> <td>2,701 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	新水前寺駅前	九品寺交差点	市立体育館前	交通局前	熊本城・市役所前	平成 22 年度(基準値)	2,960 人	1,406 人	629 人	1,402 人	1,905 人	平成 28 年度(最新値)	4,595 人	1,883 人	889 人	1,303 人	2,701 人
年度	新水前寺駅前	九品寺交差点	市立体育館前	交通局前	熊本城・市役所前														
平成 22 年度(基準値)	2,960 人	1,406 人	629 人	1,402 人	1,905 人														
平成 28 年度(最新値)	4,595 人	1,883 人	889 人	1,303 人	2,701 人														
電停改良事業の今後について	引き続き、熊本市電停改良整備計画に基づいて事業を実施する。																		

### 3. 今後について

#### <市電>

- ・交通系 IC カードの導入による利便性の向上及び電停改良や新型超低床電車導入などのバリアフリー化の取り組み等により、市電の利用者数は大幅に増加し、目標を達成した。
- ・市電車両及び電停施設の満足度について、「満足」+「やや満足」の割合が、平成 22 年度の 64.3%から平成 28 年度は 66.8%に、49.2%から 52.8%にそれぞれ上昇し、市電全体の満足度については、70 代以上の満足度が年代別トップの 83.4%に上り、高齢者の安全な移動手段として利用された。
- ・今後は、電停を公共交通相互や自転車、自家用車等との交通結節として機能を強化し、乗換拠点として整備するとともに、電停のバリアフリー化や GPS を活用した市電ロケーションシステムの導入についても引き続き実施していく予定である。
- ・さらに、「自動車から公共交通へ」というコンセプトのもと、市電が、高齢者等の安全な移動手段の確保に寄与することはもとより、熊本城と並ぶ本市の観光資源の一つとなっており、広く利用されていることから、より一層の利便性向上を図ることで、選ばれる都市づくりを推進し、民間投資や企業立地の促進、観光振

興につなげていく。

・計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。